平成３０年度三次市総合教育会議（第１回）会議録

１　日　　時　平成３０年６月４日（月）
　　開会：１５時３０分　閉会：１７時

２　会　　場　三次市役所本館６階　６０８・６０９会議室

３　出席構成員
　市　　長　増　田　和　俊
　教 育 長　松　村　智　由
　教育委員　小根森　直　子
　教育委員　藤　原　博　巳
　教育委員　土　井　純　子
　教育委員　深　水　顕　真

４　出席職員等
（教 育 委 員 会）
　教 育 次 長　長　田　瑞　昭
　事務局付課長　赤　木　　実
　学校教育課長　古　矢　俊　彦
　文化と学びの課長　松　原　香　織
　文化と学びの課係長　松　本　隆　志
　文化と学びの課主任　迫　　あすか
（事　　務　　局）
　総 務 部 長　落　田　正　弘
　秘書広報課長　東　山　裕　徳
　秘書広報課係長　笹　岡　潔　史
　秘書広報課主査　山　口　直　行
（傍　　聴　　者）３人

５　協議事項
○平成３０年度予算概要について
○教育大綱の見直しについて

秘書広報課係長　それでは，ただ今から，平成３０年度第１回三次市総合教育会議を開会する。総合教育会議は，公開により開催する。傍聴者において，写真撮影を希望される方がいらっしゃるので，これを許可してよろしいか。

構成員一同　―異議なし―

秘書広報課係長　それでは，まず開会にあたり，増田市長からごあいさつを申し上げる。

増田市長　平成３０年度第１回三次市総合教育会議を行う。三次市総合教育会議は平成２７年度からスタートして丸３年が経過した。３年間のうちには，社会の変化とそれに伴う教育環境の変化も少なからず起きている。

平素から，学校現場の皆さんには，将来のある子どもたちの「基礎・基本」の定着を中心として，子どもたちの人間形成にもご尽力いただいており，感謝申し上げたい。

市行政の教育に対する大きな役割の一つとして，いかに教育環境を充実させていくかということがある。いよいよ今年から，市内小中学校３４校全ての普通教室に空調設備が完備された中で，子どもたちが勉強できるようになる。学校現場には，夏休みを含めて，子どもたちの知・徳・体の育成のために大いに活用してもらいたいと思う。「自分たちが子どもの頃は，エアコンなしで勉強していたのに」という声もあるが，以前と今では気象状況が違う。変化に対応した教育環境整備が必要である。学校施設の耐震化についても，三次市は県内で先駆けて取り組んできた。県内ではいまだに耐震化率が１００％ではない自治体もあると聞く。教育環境の充実にはお金がかかるので，何年も実現には時間を要するが，国の補助金など財源を確保しながら，三次市はこれまで努力してきた。

不審者の動向について，心配している。青少年育成市民会議や女性会，住民自治組織，老人クラブの皆さんが，子どもの登下校の見守りを行ってくださっている。コミュニティや地域力が低下していると言われている現在において，三次市ではそれらのボランティアの皆さんが力を発揮していただいており，感謝したい。しかし，不審者情報が市内でも存在するのは事実である。新潟県の事件のように，痛ましい状況は三次市では発生していないが，市，教育委員会そして警察が一体となって，連携を図っていかなければならない。教育大綱の見直しの中でも，市民ボランティアという面も力説していかないといけないと思っている。

県立三次高等学校が創立１２０周年を迎えられた。中高一貫教育校がいよいよ来年４月から開校する。説明会には三次市民のみならず多くの皆さんが参加されたと伺っている。三次市は教育，医療，福祉，就労，生活など，あらゆる拠点となっている。県北全体の教育の充実に中高一貫教育校は必要である。ひいては，日彰館高等学校，三次青陵高等学校も将来に繋げていくことができる。
小中学校の適正規模については，一定の基準があることは十分承知しているが，保護者の皆さんと話しをしながら，そして地域の皆さんにも理解をいただく中で決断をしていくべきだと思っている。その中でこのたびの安田小学校の休校については，ＰＴＡの皆さんが地域の皆さんにも理解をいただく行動を取られて，行政にもアプローチをされて，三者が円滑に合意形成できたと思っている。

安田小学校を含めて市内には３４校の学校があるが，小学校は校舎築４０年以上が７校あり，３０年以上が５校あるという実態である。そして屋内運動場は築４０年以上が４校，３０年以上が５校ある。そして，中学校は全部で１２校あるが，築４０年以上が５校，３０年以上が５校あり，中学校では最も古いもので約５０年経っている。そして屋内運動場は築４０年以上が３校，３０年以上が１校という実態となっている。この教育施設の老朽化は，我々一般行政として，大きな財源が必要な問題であるから，当然ながら教育委員会だけでは事を進めることはできないと思っている。直接関係する教育委員会，そしてあらゆる財政をつかさどる一般行政とが十分将来を見据えた中で，方向性について時間をかけてでも，取り組むべき大きな事業であると思っている。現在の学校現場を維持する予算に加えてさらに予算が必要となってくる。この辺を教育大綱で繋げるかどうかは別にして，様々な事業展開の中では頭の中へ入れておいてほしいと思うし，一足飛びに対応策を今，講じるつもりはない。いずれにしても，学校校舎建築，屋内運動場建築は極めて時間がかかる重たい判断になると思っており，本日はその問題提起をさせていただきたいと思っている。

給食共同調理場の案件では，極めて老朽化していたため，一番心配していた三良坂の調理場が，市議会の理解も受けて，吉舎の調理場との統合を図ることができたことで，まずは一番厳しい状況をクリアできたと思っている。そして，弁当持参やデリバリー給食が１，０００食を超える現状を放置して，新しい調理場を建設していけばよいという意見があるが，市長として将来に繋げていかなくてはな

らない責任が私にはあるので,そこは十分考えていくべきだと思っている。

また，本日，平成３０年度三次市防災会議を開催した。これからは昭和４７年豪雨災害,昭和５８年豪雨災害をはじめとした過去の災害以上の大きな災害を想定しなければならない。大規模氾濫時における防災対策，減災対策というのが，極めて重要な課題として浮上している。給食共同調理場についても，防災との関連は将来のために持つべきだと思う。

文部科学省に先駆けて，三次市の学校現場では，小学校５，６年生が年間７０時間，３，４年生が年間３５時間の英語の時間を導入している。英語教育の小学校導入を他の自治体に先駆けて，意欲的に取り組んでいただくことに，敬意を表したい。私が従来からお願いしている小学校からの英語教育を現場で実践していただいている。英語検定への助成を含めて，これまで以上に支援をしていきたい。やはりグローバル社会の中で，三次で学んでいる小中学校の子どもたちが,将来のために早くから外国語に親しむことは必要であると思っているので，力を入れてもらいたいと思う。

教育は，行政の中では大事な分野であるが故に，課題もあるということを申し上げさせていただいて,私のあいさつを終わりにしたい。

秘書広報課係長　総合教育会議の構成員は，市長，教育長及び教育委員となっている。本日の会議は，全員のご出席により開催させていただく。また，教育委員会と総務部が同席させていただいている。

それでは，続いて，次第の「２　協議事項」に入る。これよりの会議の進行は議長である増田市長にお願いしたい。

増田市長　平成３０年度第１回目となる本日の総合教育会議では，１つ目として,「平成３０年度予算概要について」を協議事項とする。

まず，平成３０年度予算の中で，教育の部分について，お配りしている資料の「平成３０年度当初予算の概要」をもとに，教育委員会から概要説明をお願いしたい。

教育次長　―資料「平成３０年度当初予算の概要」を説明―

増田市長　ご出席の皆さんから，これについてご意見を伺う。

松村教育長　今，教育次長から今年度の教育にかかわる予算の説明があったが，市内の児童・生徒は非常に意欲を持って，頑張っているところで，例えば，がんばる中学生の英語活動応援事業を，小学生にも枠を広げて実施させていただくことになった。具体的には，英

語検定５級以上へ挑戦する小学生にも補助をしていこうというものである。現在，第１期の募集をして，市内の小中学校から希望を寄せていただいている。特に驚いたのは今年度の募集をかけた結果，今回で３年目を迎えているが，中学校でも小学校でもその意欲が高く，全体では２３０名近い希望が出ている状況である。今年から対象となった小学生の中には，準２級を受けたいという子どももいると聞いている。これまで本市で特にグローバル社会に対応していくことも含めながら，小１からの外国語活動をやってきたが，自分たちでしっかりと具現化し，実践していこうと子どもたちの意欲も高まっていると考えている。また，中学校も，英語検定では，２級に挑戦する生徒も出てきている。それぞれの学校で頑張っている生徒，また，英語科を指導している教員も，非常にそこは前向きにとらえて，子どもたちの挑戦を応援している。

もう一点ほど，この暑い夏に効果的なのが空調設備が設置されたことだと思う。特に最近では，暑さに弱くて，なかなか落ち着けない児童・生徒がいるが，やはりそういう暑い時期でもしっかりと集中して，学習に向かうことができるようになったし，特に家庭で，塾に通いたいとか，勉強をしたいんだという子どもたちがいても，なかなかその機会を与えてもらえない場合には，しっかりと学校で子どもたちに空調設備を活用して，力を付けてあげてほしいということを，教育委員会から学校へ伝えている。年々，その日数も増やしながら，また，指導の在り方も工夫をしながら個々に応じた指導を長期休業中であっても，やっていこうとしているということが，大きな変化であろうかと思っている。

増田市長　子どもの未来応援宣言は，昨年の１２月に市議会で議決を受けて，三次の大きなテーマとして年齢別に充実を図っていこうとしている。それから，今年のチャレンジデーの参加率は７１．０％で，極めて高い数値であった。小中学校も積極的に展開していただいたことに，お礼を申し上げたい。３７，７００人余りが参加されたということで，５，６年前と比べたら，信じられない数字である。

小根森委員　先ほど，今年度の予算を説明してくださったが，本当にいつも思うが，三次の子どもたちは恵まれている。そして，春の学校訪問に同行させていただいたが，先ほど教育長がおっしゃったように，今の子どもたちは落ち着いてきていると思う。そして，落ち着いているだけではなく，勉強を楽しむという姿勢が見られる学

校がとても増えてきたなと喜ばしく思う。特に，何年か見ていて，低学年が最近落ち着いてきたなと思うが，やはり，保幼小中，特に保幼を学校の校長先生方は意識してくれているのかなと，すごく感じている。また，ネウボラみよしなどで，保護者の方にも目を向けて，保護者の方が手軽に相談をできるような環境が整ってきたことが，低学年が落ち着いたことにも繋がっているのかなというのを感じた。

また，先ほどもあったように，英語の授業がレベルアップしているのを感じる。それはやはり，英語検定によって，子どもたちの意欲が高まっているというのもあるし，先生方が研修を夏休みなどに沢山受けていらっしゃると思うが，それによって小学校の先生方の指導力が上がっているのをすごく感じる。理科，社会については弱いと思うので，理科の素地づくりを幼小の時代でやっておいてほしいと思う。自然の中ですごく遊ぶとか，科学的な体験をみよし森のポッケなどで出来ないかと思う。ちょっと科学的な目を開くような遊びができる場所，広島で言えば，広島市こども文化科学館みたいな施設が，三次にもあればこの上ないと思っている。

あと，先ほどもあったように，中高一貫教育校の説明会に私も参加したが，すごい人で，期待の大きさを感じた。中高一貫教育校の試験問題は，考える力，表や図を読み取る力など，これからの教育にすごく大事なことが沢山入っているようである。それを市内の学校でも活用していけたらいいだろうなと思った。

また，昨日は日曜日で，私は三次きんさいスタジアムの周りの桜の木に肥料をあげる手伝いをしていたが，三次ワイナリーのそばのみよしあそびの王国はすごい人で，子どもと若いお父さん，お母さんがいっぱい来られていた。皆さんに三次の子育てのしやすさを，ＰＲできたら良いなと思いながら見ていた。

土井委員　私の長男のお嫁さんはいわゆる「街」から嫁いでくれた。彼女が最近「三次って良いところですね，子育てしやすいところが」と言う。「何でそう思ったの」と聞くと，「夜間，子どもが熱を出しても安心だし，医療費の補助もあるので助かる」と言っていた。また，子どもが生まれて，若夫婦だけで市内に住んでいて，長男は単身赴任なので，お嫁さんと小さな子ども，赤ちゃんだけが残って非常に不安であったけれど，子どもを抱いて外へ出た時に見知らぬおばあちゃんが「何歳ですか。この頃は夜泣きをするから大変だね。」というような声掛けをしてくれた。それが一人だけではなくて，歩い

ていくと出会う方が，たいてい声をかけてくれる。それが自分の育った街と比べて三次の本当にいいところだな，と思ったと聞いた。私は三次で生まれ育って，今も三次で生活しているが，自分自身それほど思わなかったが，人と人との触れ合いが少ないところから嫁いできた者にとって，本当に人の温かさというのが感じられて，そのことがすごく三次を印象づけている。だから，街のように交通の便が良いとか，生活の面でデパートがあるとか，そういうところも魅力だけれど，やはり人と人との繋がりがある三次というのは非常に魅力だと思う。やはり三次の未来をどうするべきかというと，人と人との繋がりを，地域の中でしっかりと育てていくことが大事だと思った。ある時，大きな荷物を持ってお店の出口まで行ったら，扉を手で開けなくてはならなかったところ，高校生がスッと扉を開けてくれた。「ありがとね」と言ったら，「いいえ」と言った。また，ある日には夕方お店の出入り口のところに立っていたら，自転車に乗ってきた高校生が「こんばんは」と声をかけてきた。すごく心の落ち着きというものを高校生の姿に感じた。地域の中学生達もよく声をかけてくれる。何気ない一言，それから生まれる人と人との繋がり。これを大切にする教育をしっかりしていかなくてはいけないなと感じた。

増田市長　今，お二人の方がおっしゃられたことは，当初予算の概要からのお話しではあるが，教育大綱にも繋がってくると思う。他の委員さんからもご意見をいただきたい。

藤原委員　私ごとですが，木曜日には外部講師ということで，田植えをしている。これは１０年続けている。話しをしてみると，やはりこの中山間の農家の子どもさん，お孫さんであっても，そういった体験がかなり減っている，少ないというのが実態である。そういう意味でも現場体験が十分にできれば良いなと思う。

毎年１年経つのが早いなとつくづく思うが，子どもの成長はすごく早いので，より良い学習をしっかりと，その子どもたちのためになる行動が，これまで以上にできれば良いなと思っている。

増田市長　やはり農業を一つとっても，体験させていくということは大切である。一世代上の我々は子育ての中で，農業体験とか，地域の体験をさせずにいた面がある。やはり子どもたちに小さい時に体験をさせていくことが，すごく大事だということをつくづく感じさせてもらう。

深水委員　市長さんの挨拶の中であった点から，私が今回学校訪問の中で，

感じたことを２点ほどお話しさせていただきたい。

一つは，先ほど話しがあった，三次の中高一貫教育校の開校ということに関して，これでいよいよ三次の中において，小学校を卒業しての受験ということが非常に現実的になってくると感じた。今までは当たり前に，公立の地元の中学へそのまま進学，持ち上がるというイメージが強かったのが，様々な選択肢が小学生の段階から生まれてくるというのが大きな変化だと思っている。ただ，一方では果たして十分サポートができるかどうか，大きな疑問がある気がする。私の知り合いの子どもは，広島の高校へ進学したが「広島の高校はすごいよ。ここだったら勉強ができてもいいんだ。」と言ったそうだ。すごくショックなことで，この三次の中学校の中では，できるだけ「できる」ということを隠しておかなくてはいけない，ということである。目立ってしまうと色々な意味で学校の中で過ごしにくかったと，広島の高校では勉強ができたっていいんだと。ということは逆に，小学校の段階で受験をめざした時に目立ってしまう，色んな意味で受験というのが足かせというか，負のレッテルになりかねないということがある。だから，小学生の段階での進路指導というか，しっかりと学校でサポートをしていただければと思っている。今まで，特別支援というところの学力が十分ではない所が中心であった気がするが，逆な意味での特別な支援もあり得るのではなかろうかと考える。

もう一つは，非常に細かい話しなのだが，いくつかの学校でエアコンを整備していただいて，非常に快適な環境ができていると思うが，非常に暑い日だったが，ある学校を訪問したとき，エアコンが動いてない，使ってないところがあって，これはどうなのだろうかと思った。先ほどから長期休暇，夏休みの活用というのがあったのだが，せっかくあるのだから，例えば今日も非常に暑い日だから，こういった時にも現場の判断でどんどん使っていくべきではないかと考えている。機械があるのだから使っていただいて，そして快適な環境を作っていただきたいと考えている。

増 田 市 長　三次市の電気料は，近年入札をして価格競争という形で決めている。今から２年前には年間３千万円以上のコストダウンになった。幸いにして今年２年，契約更新に入ったら，年間６千万の電気料のコストダウンが見込まれる結果となった。子どもたちのために活かしてもらえばいいと思う。また，我々は常にコストダウン，合理化，そればかりをめざしてはいけない。本当に満足度へ繋がっていく，

そういう施策は，コスト高になっても，やっていくべきだという思いも持っている。

松村教育長　温度にすごく敏感な児童生徒もいるので，効果的に使うために，各学校でも基準を決めている。たまたま深水委員に行っていただいた時に，校長室は暑かったようだが，教室にエアコンを入れるかどうかその時検討中の状況だったようだ。

小根森委員　特色ある学校づくり創造事業は，校長先生方の意欲を高めていただいている。この前は君田小学校に行ったが，一生懸命校長先生が頑張って，図書館の改造，子どもたちが集まりやすい図書館，そこでリラックスできる図書館づくりに，その事業の予算を使うとおっしゃっていた。予算は各学校の校長先生がやる気になる源となっている。

増田市長　特色ある学校づくり創造事業は，教育委員会だけでなく市長部局も入らせてもらっている。いわゆる，ＩＴ関係などにも取り組んでおり，２年後に実施していかないといけないプロブラミング教育を含めて前倒しで，取り組んでいる。１回目は私も入らせていただいて，校長先生からヒアリングを受けた。小中学校で何がやりたいか，色々と出てきている。今，１千万円ほど予算を組ませてもらっているが，最終判断する時には増やしていく明言をしても良いので，経常経費とは違って，積極的に子どもたちの将来へ向けて，現実の中で効果を出していくためのアクションをやってもらえれば良い。良い取組も生まれてきている。まだまだ，頑張ってもらわないといけないところもあるが，この予算を活用していこうという状況になっている。

一通りご意見を頂戴したが，繰り返しになるが，いただいた意見は決して予算だけの話しではなく，これからの協議事項の一つである教育大綱なり，教育委員会としての取組の方向性の中へ加えてもらいたい。次に教育大綱の見直しについて，説明をしてもらいたい。今日はあくまでもこれからのスケジュールについてご意見を頂戴するぐらいで，各論の話しは予定していない。

秘書広報課長　―資料「三次市教育大綱　平成３０年度見直しスケジュール（素案）」を説明―

増田市長　今年は課長が説明したように，例年よりは総合教育会議の開催回数は増やして，教育大綱の見直し作業に入っていきたいと思っている。現在の教育大綱は，今丸２年経過した程度である。よって，１０年間隔で策定する三次市総合計画と比べると，３年の期間であ

るので，もう見直しを進めていくようなことになる。今，教育を取り巻く環境の変化をどうとらえ，どのように教育現場を進めていくか，それをいかに理念的に結び付けていくかが大事である。もう一つ，特に私が大事だと思うのは，教育大綱を策定して進めてきた２年あまりについての検証である。教育委員会，市長部局で連携して，重き思いを持って実施してもらいたいと思う。そういうバックデータを基に，委員の皆さんとこれまでの２年間の歩みを振り返り，さらには，教育委員として，また学校現場として，色々な面からのご意見を頂戴したいと思っている。今日はご覧のように２月まで５回会議を開催させてもらうスケジュール（素案）となっている。

松村教育長　教育大綱の３ページの大綱の体系のところに，基本目標がⅠ～Ⅲまで記載されている。この基本目標のⅠ～Ⅲについて，今までやってきて出来たこと，そしてさらに伸ばしていかなければならないことを検証していければ良いと思う。１ページ目の「はじめに」の所は，もうすでに現在では，実現出来るようになっていることがあるので，この「はじめに」もしっかりと見ながら全体を検証して，５回ほど会議の場をもっていただくことになれば，しっかりと論議が出来ると私は思う。

増田市長　子どもの未来応援宣言を策定しているので，教育大綱の中に，子どもの未来応援宣言を重き柱として，若い世代の皆さんが「住み続けたい，住んで良かった」と思われるような環境づくりへ繋いでいきたい。

小根森委員　私も今日の協議項目の中に入っていたので，事前に教育大綱を見直した。３年前にあまり無かったことと言えば，中高一貫教育校が出来ること。今までは，小中一貫教育を中心に考えてきた。あと，もう一つは，ＩＣＴがますます教育の現場にも入ってくる中で，どう活用をしたら良いのかと思う。

深水委員　６月２日と３日に，竹澤丹一記念館の一般公開があったが，遠くは岡山，山口といった所からも沢山来ていただいた。竹澤丹一先生に書道を習ったという方がかなり来られた。小学生の時に習ったとか，また，別の市民教室のような所で習ったとかで，「書道が楽しくなったのはこの先生の教えによるんだ」といった話しをその場で聞かせてもらった。改めて，先生と子どもとの出会いというのがいかにその子どもの一生を作りあげていくか，非常に大きなものなんだなということを感じさせて頂いた気がする。私のひいおばあさんが，地元の川地小学校の教師をしていた。そのひいおばあさんが，

竹澤丹一先生の担任をしており，その時に非常によく出来た子どもさんだったそうだが，書き方の科目だけ，非常に悪い点数を付けたと。それがきっかけで，習字をずっと頑張って，そして竹澤丹一先生は書道家になられたという経緯を聞いている。やはりこれもまた，先生と子どもとの大切な出会いが一生を作り上げているという気がする。是非，この先生と子どもの非常に大きな出会いがをしっかりと，保障できるというか，そういった項目がほしいなという感じがする。ただ，逆に残念ながらどうしても，相性が合わないということもあり得る。その場合に，何らかの形で安全面として，この先生とあわなくても，例えば学校の中の別の先生と仲良かったとか，そういった思いが作れるような学校全体，もっと言えば市全体，教員全体で子どもの出会いを支えていけるような，そういった仕組みが出来ればなという気がしている。

藤原委員　三次の小学校・中学校・高等学校を巣立って市外に出たとしても，将来三次に戻って住みたい，三次で所帯を持って，子どもを授けてもらって生活をしていきたいという子どもたちが増えてきてほしいと思うが，そうした中でやはり，小中学校の時代に将来に向けた，よく夢と言うが，子どもたちと話しをするのに，夢は持ち続けなくてはならないし，ただ，夢，夢と言っても，大きな夢を持っていても，それを現実にするためには，「１０の目標を持ちなさい」といつも言っているが，その一つひとつの目標をクリアすることによって，夢に近づいて，色んな夢を持ってほしいと思う。そういった周りの環境作りというか，私を含めてそうしたものが出来ていけば良いなと思う。

増田市長　三次を出ても，故郷へ帰ろうかという気持ちを持てる子どもたちをいかに増やしていけるかが大事。そのためにはわくわく体験活動推進事業の継続を上手く学校現場でしてもらって，田植えなり，稲刈りなり，農業体験も，プログラムの中に入れてやってほしい。三次には甲奴町に天体望遠鏡など色々な物が整備されているし，とみしの里，ほしはらの山のがっこう，江の川カヌー公園さくぎ，広島ふるさと村などがある。あちこち，宿泊しながら，日常的に経験出来ないことを学校現場で考えてやってもらえれば，ありがたいと思う。

もう１点。高校生のキャリアアップ事業。半日プレゼンをして，午後から何班かに分かれて，何社か組み合わせてバスで企業を回る事業を，高校２年生を対象にやっている。例えば，福祉の事業所で，

大変困っているんだという所に７名，三次と庄原の人が入社してくれたと，この前その事業所の理事長さんがおっしゃられた。残ろうという気持ちが少しでもあれば，こういう体験を通じて市外に出ずに残ってくれる，あるいは出ても帰る故郷があるということで帰ってくれる。そういうことが大事だと思う。２年といえども，時代は流れているから，先ほどおっしゃって頂いたように，中高一貫教育校の誘致や，ネウボラみよしをはじめとした子育ての関係についても，これからの３年先を見通した教育大綱づくりをお願いしておきたい。

小根森委員　今度，メキシコ陸上選手団が三次に来られるが，その時の子どもたちとの関わりというのはどのようなことを考えているのか。

増 田 市 長　メキシコのＰＲをしていくことと，もう一つは子どもたちとアスリートとの触れ合いをやっていきたい。メキシコもそれを望んでいる。

土 井 委 員　「農業したいなって思っても，一人じゃなかなか出来ない。育てないといけない。育てるのは６０歳代，７０歳代である。年寄りが集まって年金の話しばかりして，地域に元気は出ない。わしの田んぼの中に，山の中に，自分らの生きる道があるんだ。元気な若い者を作っていかないといけない。それには年寄りが元気でないと，わしらはこうやって一生懸命生きてきたというのを見せないといけない。そうでないと，故郷を愛せと言ってもできない。」というような話しを聞いた。そういう話を聞きながら，子どもたちに元気な生き方を学ばせたいと思った。

増 田 市 長　本日は，皆さんから色々なご意見を頂戴した。引き続いて８月に教育大綱の検証をしていきたい。

それでは，議長はここまでとして，事務局に返すので，最後に事務局から諸連絡をお願いしたい。

秘書広報課係長　それでは，最後に事務局より，次回の総合教育会議の開催予定について，ご連絡したい。

次回は，「教育大綱の見直しについて」，具体的に協議を始めさせていただきたいと思う。日程については，８月下旬を予定している。詳細が決まったら，改めてご案内させていただくので，ご出席をよろしくお願いしたい。

以上をもって，平成３０年度第１回三次市総合教育会議を終了する。